

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 25 年 12 月 12 日 (2013.12.12)

【公表番号】特表 2011-524194 (P2011-524194A)
 【公表日】平成 23 年 9 月 1 日 (2011.9.1)
 【年通号数】公開・登録公報 2011-035
 【出願番号】特願 2011-512980 (P2011-512980)
 【国際特許分類】

A 6 1 B 17/10 (2006.01)

A 6 1 B 1/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/10

A 6 1 B 1/00 3 0 0 B

【誤訳訂正書】
 【提出日】平成 25 年 10 月 22 日 (2013.10.22)

【誤訳訂正 1】
 【訂正対象書類名】特許請求の範囲
 【訂正対象項目名】全文
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

拡張スリーブ(3)を有する内視鏡キャップ(1)であって、
 キャップの外壁から径方向に離れて前記内視鏡キャップ(1)の長手方向に延びるタブ(9)を有し、
 前記タブ(9)と前記キャップの外壁の間には、前記拡張スリーブ(3)の先端部に開口する前方溝(7)が形成され、
 軸方向前方のキャップ部分において径方向に前記前方溝(7)を横断して前記内視鏡キャップ(1)の径方向内面で操作する内視鏡チャンネルに移動可能に導入される引き出し系又は織物(11)と、を有し、
前記前方溝(7)は、当該前方溝(7)に着脱容易に挿入される生体組織用クリップ(4)に作用する保持手段を構成し、
前記引き出し系又は織物(11)は、前記生体組織用クリップ(4)に作用する引出手段を構成する

ことを特徴とする内視鏡キャップ。

【請求項 2】
系(11)は、前記内視鏡キャップ(1)と同軸に延びて前記前方溝(7)を形成するタブ(9)の径方向の外部に固定されることを特徴とする請求項 1 に記載の内視鏡キャップ。
 【請求項 3】

前記タブ(9)は、前記系(11)が案内されて固定される径方向の外側貫通孔(10)を先端部に備え、

前記系(11)が前記前方溝(7)を横断して移動可能に案内される径方向に設けられた内側貫通孔(12)は、前記外側貫通孔(10)と径方向に対向するように前記拡張スリーブ(3)に形成されることを特徴とする請求項 2 に記載の内視鏡キャップ。

【請求項 4】

前記内視鏡キャップ(1)は、前記拡張スリーブ(3)が軸方向に一体に連結される内視鏡シャフトの遠位端に嵌め込まれ、又は、ねじ止めされるスリップオン部(1a)を有することを特徴とする請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の内視鏡キャップ。

【請求項 5】

前記スリップオン部(1 a)の軸方向の規制部として、及び、差込み又はねじ込まれる内視鏡シャフトの軸方向のストッパーとして、機能する径内環状の肩部(5)を有することを特徴とする請求項4に記載の内視鏡キャップ。

【請求項 6】

キャップの外壁の外部で、溝底部(8)から軸方向後方に延設され、前記キャップの全周を囲む径外方向に肉厚となった肉厚部又はビード(1 b)を有することを特徴とする請求項1～5のいずれか1項に記載の内視鏡キャップ。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0013

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0013】

本発明は、生体組織用クリップを収容する拡張スリーブの外側円周面に、円周方向に対して両側(又は、その端部)が開口して前方溝(舌状の軸方向突出部)を形成して、糸又は織物が径方向に前方溝を横断して引き出されることを特徴とする。糸は、一方の端部が内視鏡又は内視鏡キャップに固定され、他方の端部が内視鏡に沿って移動可能に案内される。糸は、生体組織用クリップが溝に押し込まれるときに、生体組織用クリップとともに溝に引き込まれて収められる。そして、糸が引っ張られると、前方溝内の糸が収縮することで、生体組織用クリップは糸によって再び溝から押し出される。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0014

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0014】

本発明の保持手段及び引出手段は、スライド可能な糸を設けるとともに、軸方向に対するストッパーを形成する前方溝/切れ込みが設けられている。保持手段及び引出手段は、引出手段を最小限の空間しか必要としない非常に柔軟な糸又はケーブルによって構成して、滑車の原理によってクリップに対して十分に大きな移動力を作用させることができる。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0025

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0025】

タブ9の軸方向の前端部には、糸11又は織物がキャップ1の外部から溝の内部に案内されて固定される径方向の外側貫通孔10が形成されている。なお、糸の一方の端部はキャップの外部で結び目を形成することで、糸11が外側貫通孔10から引き出されることを防止することができる。また、外側貫通孔10と径方向に対向する箇所、即ち軸方向に突き出る拡張スリーブ3の領域で、糸11が溝の内側から内部に案内される径方向の内側貫通孔12が内視鏡キャップ1に設けられている。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0026

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0026】

特に図3から分かるように、内側貫通孔12は内視鏡ヘッド2の遠位端側に形成され、

内側貫通孔 12 から引き出される糸 11は長い移動距離を要することなく、内視鏡ヘッド 2 の端部側に開放される機能チャンネル又は内視鏡の作業チャンネルに通すことができる。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0028

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0028】

生体組織用クリップ、例えば、図 1 の生体組織用クリップ 4 を所定の位置に移動させるために、まず生体組織用クリップは内視鏡キャップ 1 の拡張スリーブ 3 に装着されなければならない。このために、生体組織用クリップ 4 の下顎部及び上顎部が手動で開けられた後、生体組織用クリップ 4 が拡張スリーブ 3 の湾曲した先端部に装着され、拡張スリーブ 3 の上に密着される。このとき、生体組織用クリップ 4 の後端部が内視鏡キャップ 1 の前方溝 7 に挿入されることで、糸 11は内視鏡シャフト 6 の機能チャンネル又は作業チャンネルから引き出される。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0029

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0029】

クリップが最終的に溝底部 8 に当接することで生体組織用クリップ 4 の移動が停止し、生体組織用クリップ 4 及び随伴する糸 11は図 2 に示す状態となる。即ち、この状態で、生体組織用クリップ 4 は内視鏡キャップ 1 に完全に装着され、内視鏡ヘッド 2 により管腔臓器に導入される。糸 11は、生体組織用クリップ 4 の後端部を生体組織用クリップ 4 の長手方向に U 字状に包む。

【誤訳訂正 8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0030

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0030】

生体組織用クリップ 4 を取り外す場合は、シャフトチャンネルを通して内視鏡の近位端へ案内される糸 11を引っ張り、前方溝 7 を横断している糸の部分を径方向に収縮させる。糸 11は外側貫通孔 10 に固定されているので、糸 11は、滑車の原理により軸方向の適切な力を生体組織用クリップ 4 に与える。これによって、生体組織用クリップ 4 は内視鏡キャップ 1 の遠位端の方向に移動される。拡張スリーブ 3 の端部の外側湾曲部及びゆるやかなアーチ状の前方溝 7 は、拡張スリーブ 3 の先端部に掛けられた生体組織用クリップ 4 のスライドを容易にして、さらには糸 11を介在して作用する最大移動力を減少させる。生体組織用クリップ 4 の後端部が前方溝 7 を離脱して、これ以上タブ 9 によって保持されなくなると、生体組織用クリップ 4 に蓄えられた偏向力は、生体組織用クリップ 4 が拡張スリーブ 3 から取り外されるようにする。このようにして引き出し操作が完了し、内視鏡は管腔臓器から取り外される。